

こんなところに防災製品

(公財)日本防災協会 広報室

京都市では、全国に先駆け昭和59年に同市火災予防条例において宿泊施設における防災寝具使用の努力規定が設けられています。

今回は、率先して防災寝具の使用に取り組んでおられる京都ホテルオークラ様及びからすま京都ホテル様を訪問してお話を伺いました。

さて、歴史ある京都ホテルオークラグループ様のホームページには「京都ホテル100年ものがたり」のバナーが設けられており、コンテンツを少し読み進むだけで、維新後の明治という時代が、京都における外国人向けホテルを必要としたことに始まり、伊藤博文との係わり、大

津事件のロシア・ニコライ皇太子の宿泊、アメリカ世界一周観光団、与謝野鉄幹洋行壮行会……といったまさに歴史が飛び込んできます。

さらにルーツを辿りますと、ものがたりタイトルの「100年」を優に超えて「since 1888」に遡り、また、長州藩邸跡に立地ということで、正面玄関横にある桂小五郎（木戸孝允）像は、有名な観光スポットになっています。

現在の建物は、平成6年に建て替えられ、京都市内では、最も高層な建築物の一つとなっており、また、眼下に見下ろす鴨川をはじめ山紫水明の京都の素晴らしい眺望を得るため、客室の全てが7階以上の高層階に設けられていることから、万一の火災に備え、利用客の安全・安心を第一に考えて、積極的に防災寝具（布団、毛布、枕、ベッドパッド等）が使用されています。



ホテル外観



桂小五郎像

客室担当者のお話では、「防災寝具を導入した正確な時期や経緯は、不明ですが、少なくとも新しい京都ホテルオークラの建物になってからは、322室全てで使用されています。また、からすま京都ホテルにおいても238室全ての部屋で使用されています。

防災寝具等の防災製品は、お客様に安全で安心いただける空間を提供させていただくために、必要不可欠なアイテムであり、安全性を後退させることは、絶対にあってはならない！と認識しています。」と決意ともいえる力強いご説明を伺うことができました。



客室一例



防災品の寝具類



防災品のベッドパッド

